

幼い恋人

岡本 悠

こうた、は、さすらった、吾輩は猫である

命がけの恋とは、こんな恋である

母は、バンビみたいに、かわいい先生と評した

早子先生は、幼稚園の先生

うっすらと、脳裏に刻まれている、かすかな顔立ち

ああ、綺麗だ

優しい

俺の、初恋の人

俺は、幼稚園の頃、

スポーツ万能だった

長距離も速ければ

短距離も速かった

俺は、いつも、早朝のマラソンで1位だった

普段から、家の周りを走っていたからだ

ある日、ある子が俺よりも早くゴールしそうになった

俺は、慌てて、つい、その子を引っ張ってしまい

1位になろうとしたが

その子は泣いてしまった

問題が発覚して

俺は、狼狽した

短距離でも問題を起こした

俺は1番速かったが

ある日から来た生徒に

競われるようになった

向こうのほうがちょっと速かった

ある謝肉祭のリレー大会で

俺は、その子と最後の直線を競い合ったが

若干リードされたので

野球のように、スライディングをした

そうしたら、それを見ていた女の先生が

危ないから駄目ですよ

と、注意された

俺は、いつも元気よく外で遊んでいた

主な遊びは、リレーか、ドロ刑、

その頃は、ドロ刑が流行っていた

皆の空気も、ドロ刑という中

間違えて、「リレーやろう！」と云った

すると、違う子が

「ドロ刑がいい」

と云った

早子先生が、ジャンケンして勝ったほうにしよう、と言う

俺は、ジャンケンに負けた

ドロ刑になり、

俺は、1人ポツリと彷徨った

しばらく、彷徨っていると、

誰かが、一緒にドロ刑やろうよ

と言ってくれた

そして、仲間に入れてもらって

何ごともなく、その事件は解決した

俺は、皆勤賞を狙える位置にいた

無遅刻、無欠席である

しかし、クラスメイトに

目つきの怖い女の子がいた

元々のものだと思う

俺が、繊細すぎたのか

家に帰り、もう幼稚園には行きたくないと言った

事情は言わなかった

何故だかわからないが

その子を傷つけると思ったからかもしれない

翌日、グズル俺を、母は強引に連れていった

結局、皆勤賞は取れたかわからないが

のちのち、母には説明した

母は、そうだったんだ

と、心配そうにしていた

仲のいい、女の子はいたか、忘れてしまったけど

砂場や、ブランコ、ジャングルジムで、遊ぶ程度だった

卒園して、親友の厚と2人で、幼稚園に来た

「早子先生、まだいるかな？」

なんか、いたような気もするが、

もう、辞めてしまったかもしれない

あとあと、聴いた話では

結婚されて

もう、辞めたと言っていた

もし、生きていたら、もう60歳くらいになっているだろうか？

あの面影が、一生の宝物として、プログラミングされている

優子も言っていたな、保育士になりたいと

女の子に、人気のある、職業だ

まさか、あんな小さなガキが

こんな、馬鹿になっているとは、驚くだろうな

でも、早子先生のおかげだよ

俺、一人前の人間には、慣れたから

幼さにかまけて、キスでもしておけばよかったのに...

「完」